

そこが聞きたい!!

一般質問

一般質問のようすは、インターネットで配信をしています。2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます。
(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は2年間です)



若者の闇バイト対策と防犯体制の強化を

酒井 英男（健政会）



録画配信の
2次元コード

◆若者を取り巻く闇バイト問題

①闇バイトに対する若者への防犯教育などの取り組みは。

②相談窓口を設置する考えは。

市民部長 ①学校や地域と情報を共有し、若者に闇バイトの危険性について正しい知識を持たせるため、中学校では非行防止対策として時事問題を取り上げた教育のほか、関係団体との連携によるワークショップなどを実施している。

②交通防犯課では、市民が抱える犯罪に対する不安や疑問を気軽に相談できる体制を整えており、対面のほか、電話やメールでの相談も受け付けている。引き続き狭山警察署とも情報共有を図りながら、市民が安心して生活できるよう、適切な相談体制を整備し不安の解消に努めていく。

◆今後の犯罪対応策

強盗傷害事件など犯罪の抑止力につながる施策は。

市民部長 犯罪手口の多様化、巧妙化も進み、さらには地域社会の変化など、市民の安全・安心を守るためには従来からの施策や対策だけでは十分な効果を上げることが難しくなっており、より地域が一体となり定期的な防犯パトロールや見守り活動を行うことが地域内の異変に早く気づく手段であり、地域の特性やニーズに応じた防犯活動を展開するためにも、地域住民相互の情報共有と信頼関係が不可欠であると考えている。なお、デジタル技術の活用も含め、効果的な防犯対策の検討を進めていく。



その他のテーマ

▶増加する集中豪雨などによる内水氾濫の対策



一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。12月定例会では、17名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。



安心で安全なまちを目指して

土方 隆司（新政みらい）



録画配信の
2次元コード

◆治安

埼玉県における警察官の負担率が高いことに加え、犯罪が多様化かつ巧妙化する中、治安の向上に向けてどのように取り組んでいくか。

市民部長 地域での防犯パトロールや防犯活動を推進しつつ関係機関と地域住民の情報共有に努めており、今後も積極的に支援していく。

◆水源の保全

狭山市は県水を受水し水道事業を行っているが、県水の源となる水源を外国資本が買収した場合、我が国の資源である水を日本人が外国資本から買わなければならないことも考えられる。水源の保全に対する市の考えは。

上下水道部長 水源の多くが国有林野に含まれ

ていることから水源が不安定になることは考え難いが国や県などの動向を注視していく。

◆市長の所信

市民の平穏な暮らしを実現していくには市長と議員とで立場は違うが注力していく必要があると考える。狭山市の安心安全に向けた市長の所信は。

市長 日本だけでなく、世界的にも犯罪が凶悪化し、災害が激甚化する中、行政として最も大きな責務である「市民の安全・安心を守る」ということを強く意識し、地域づくりに尽力していく。



生活道路の交通安全対策について

関根 弘樹（公明党）



録画配信の
2次元コード

◆狭山市の「ゾーン30」の課題

生活道路における歩行者などの安全確保を目的に、特定の区域内で車の速度を時速30キロ以下に抑える「ゾーン30」の取り組みは、市内での設定から10年以上が経過した。見えてきた課題は。

市民部長 「ゾーン30」の区域指定から10年以上が経過し、それぞれの地域で定着し一定の成果はあるものの、依然として速度制限を守らないドライバーが後を絶たないことが課題である。



より実効性の高い
交通安全対策を

◆「ゾーン30プラス」導入への課題

新たに「ゾーン30プラス」という取り組み

も始まっているが、導入に当たっての課題は。
市民部長 「ゾーン30プラス」は、道路に凹凸や狭^{きょうきう}窄^{きょうきう}を設けるため、沿線住民から道路の快適性が阻害されることや振動に対する不安の声も予想され、設定には住民の十分な理解と合意が必要である。また、「ゾーン30」以上の道路の改良や施設整備が必要となることが課題である。

◆「ゾーン30プラス」の導入意向

今後「ゾーン30プラス」の取り組みを狭山市内で検討する意向は。

市民部長 「ゾーン30プラス」の導入は交通安全対策として有効であると認識しているが、施設の整備費や維持管理費が課題であり、まずは生活道路の法定速度が30キロに規制されることを機に、交通安全教育や啓発活動を通じて交通安全の意識高揚を図りながら、今後の交通状況を注視し、検討していく。

その他のテーマ▶路面標示、カーブミラーの課題



健康寿命の延伸で持続可能な社会の実現を

菅野 淳（創造）



録画配信の
2次元コード

◆医療費や介護給付費の削減に直結

高齢者の方々が健康で活力ある生活を送ることができるになれば、それは健康寿命の延伸に繋がり、医療費や介護給付費の削減にも繋がるが、そのために行っている事業は。
健康推進部長 高齢者に向けて「すこやか体操」や「いきいき百歳体操」などへの参加を促進するとともに「健康マイレージ事業」などデジタルを活用した健康づくりの機会を提供している。

◆デジタルを活用した健康づくり

健康マイレージ事業の内容は。

健康推進部長 スマートフォンのアプリを活用し、平均歩数より1,000歩以上多く歩いた時やウォーキングなど市が指定するイベントに参加し

た時にポイントが付与されるものである。

現在、各イベントなどで認知度アップに努めている。

◆市内で43グループが活動

いきいき百歳体操は市内で43グループが活動しているが、どのような支援を行っているのか。
健康推進部長 体操で使用するおもりの無償貸与、サポーターのボランティア活動保険の費用負担、理学療法士による体操指導や体力測定会、地域包括支援センターによる相談対応などの支援を行うことにより、高齢者による主体的な介護予防活動を促進している。



いきいき百歳体操で健康づくり